

1 経緯及び目指す方向性

【東京都がん対策推進計画】

- 地域の医療機関に対する基本的緩和ケアの推進、医師以外の医療従事者の緩和ケアに関する基本的知識の習得促進を取組の方向性としている
- 拠点病院等での治療後も、切れ目なく在宅で質の高い緩和ケアを提供するにあたり、多職種の連携と知識・技術の向上を図ることが必要と明記

【国指針に基づく緩和ケア研修会】

- 国の研修は医師及び歯科医師を対象とし、それ以外の職種は参加が望ましいとされているが、多職種の受講は進んでいない
- 医師向けの内容が中心で、多職種に合致した内容ではない

▶ 多職種を対象とした基本的緩和ケアに係る研修の実施により、地域の医療機関における知識・技術の充足を促し、緩和ケアの円滑な実施を図る

2 これまでの研修概要

- 医師・歯科医師以外の多職種を対象
- 各圏域で、拠点病院等の手挙げによる開催
- 共通編と職種別編（4職種）の計5種類
- 職種別の視点を取り入れた内容

＜共通編＞ 令和元年度・2年度実施（各1回）
・多職種が共通で知るべき事項についての講義

・下記4職種の紹介

＜職種別編＞ 令和3年度「相談職編」実施（1回）
令和4年度「薬剤師編」実施（1回）

・各職種ごとのメインの講義＋他の職種に係る講義（薬剤師、リハビリ、相談職、栄養士）

▶ 拠点病院等の準備の負担感や国の研修との違いが浸透しなかった等の理由により、開催が拡がらなかった

3 令和5年度の取組の方向性

【内容】

緩和ケアや地域移行における職種別のアプローチや職種間の連携方法を学べる研修会を地域の薬剤師、リハビリ職、相談職、栄養士等を実施する。

プログラム・テキストは既存のものを活用する。

地域の医療従事者の受講機会を確実に設けるため、1病院に委託し、集中的に研修の準備・開催・振返り及びプログラム改良を進めることで、統一された質の高い内容の研修を効率的に実施する。

【効果】

各職種の専門分野に係る緩和ケアの知識・技術の向上とともに、職種や組織をまたいだ患者情報の共有や連携が進み、円滑な地域移行につながる。

4 検討事項

【主な受講対象者について（地域の病院向けか在宅療養向けか？拠点病院等の医療従事者を含むか？）】

補助事業の際には対象が広すぎたことで、満足度低下（初学者から日常的に従事している者まで参加あり）

（対象者案）拠点病院での治療後等のがん患者と関わる、緩和ケアの経験が浅い多職種の医療従事者

例：地域の病院、診療所、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、薬局

※病院と在宅療養で提供する医療・ケアに違いがある場合、研修内容を別に作成する必要があるか？

【その他】

○到達目標をどうするか

○研修の名称（国の研修会と差別化）、内容の方向性、既存のプログラム・テキストに加除修正すべきこと

○地域の多職種への周知方法について

病院からの案内、東京都からの案内（拠点病院等経由の案内、ホームページへの掲載等）

国、都(共通編)及び都(職種別編)研修会の具体的違い

項目	国指針に基づく研修	都 共通編	都 職種別編 薬剤師	都 職種別編 リハビリ職	都 職種別編 相談職	都 職種別編 栄養士
考え方	基本的な緩和ケアについて正しく理解し、緩和ケアに関する知識、技術、態度を修得することで緩和ケアが診断の時から、適切に提供されることを目的	医師・歯科医師以外の職種が基本的緩和ケアを習得することにより、緩和ケアの専門的知識を有する緩和ケアチームと、他職種・他部門との連携強化を図り、がん患者が切れ目なく緩和ケアを受けられる体制を目指す				
対象者	がん等の診療に携わる全ての医師・歯科医師(緩和ケアに従事するその他の医療従事者も参加することが望ましい) ※実態として、その他の職種の受講率は低い(医師の修了が診療報酬の算定要件であることや、受講率が現況報告の指標であること、自院の医師の受講が中心)	薬剤師、リハビリ職、相談職、栄養士等	薬剤に関わる医療従事者 (例) 薬剤師 臨床工学技士	リハビリに携わる医療従事者 (例) 理学療法士(PT) 作業療法士(OT) 言語聴覚士(ST) 義肢装具士(PO)	患者や家族の相談に携わる医療従事者 (例) 医療ソーシャルワーカー(MSW) 臨床心理士	栄養管理に携わる医療従事者 (例) 栄養士
構成	<ul style="list-style-type: none"> ・e ラーニング(患者の視点を取り入れた全人的な緩和ケア、がん性疼痛治療法、症状緩和、コミュニケーション技術等)の復習 ・コミュニケーションのロールプレイ ・全人的苦痛に対する緩和ケア(事例検討、グループワーク) ・療養場所の選択、地域連携(事例検討、グループワーク) 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本講義 全人的な緩和ケア、がん性疼痛治療法、症状緩和、倫理、意思決定支援等の知識を共有し、多職種で取り組めるようにする。 ・症例検討グループワーク(退院支援カンファレンス) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本講義 薬剤に携わる者として、在宅退院を目指す患者への介入事例を知り、PCAポンプの活用や腹水の治療方法等を理解し、円滑な多職種協力につなげていく。 ・症例検討グループワーク(退院支援カンファレンス) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本講義 緩和における病期ごとのがんリハビリテーションや浮腫ケアの内容、多職種との連携を知り、患者の要望を尊重しながら、身体的、精神的、社会的にもQOLを高く保てるように援助していく。 ・症例検討グループワーク(退院支援カンファレンス) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本講義 こころの苦痛へのアプローチ、本人の生活・人生が反映された意思決定の支援や家族の状況把握等の手法を知り、患者がその人らしく地域・社会の中で暮らすことを多職種で支援していく。 ・症例検討グループワーク(退院支援カンファレンス) 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本講義 がん患者にあわせた栄養管理、摂食意欲低下に対するアプローチや多職種との連携を知り、食べられる楽しみのサポートや食べられないことへの不安軽減につなげていく。 ・症例検討グループワーク(退院支援カンファレンス)
	※医師向けの内容が中心	※医師や歯科医師以外の職種が、多職種の視点やアプローチを学べる内容				